

令和4年度第2回定例会（2022年6月）での質問内容です（Q：やしきだ区議の質疑、A：行政側答弁）

多世代交流  
の在り方

## 多世代交流の課題の検証と今後の施策展開

やしきだ  
あやか

江東区長期計画によると、区の将来の人口予測では、本区の人口を占めている35歳から54歳までの後期壮年層の区民が10年後には減少。55歳から64歳までの熟年層が増加。また75歳以上の後期高齢層も今後増加すると

されています。本区では、**早い段階で世代を超えた交流ができるように、公共施設等に交流スペースを整備し、環境を整えてきました。**2011年には、臨海部東雲地域に江東区児童・高齢者総合施設「グランチャ東雲」を開設。

グランチャとは・・・おじいさん、おばあさんを意味する「グランパ・グランマ」とこどもを意味する「チャイルド」を組み合わせた造語で、シニア世代の健康や生きがいづくりと、こどもたちの健やかな成長を担う施設です。

12年目を迎え、多世代交流の促進には、**事業者側の企画などの仕掛けが必要という課題**が見えています。施設整備だけでは交流の自然発生は厳しいこと、自然な交流が生まれても継続は非常に困難なことを、グランチャ東雲の事例から学びました。本区では、**多世代交流へどのような理想を描き、今後も施設整備をはじめとした交流の在り方を考えているのか伺います。**また継続的な交流促進には、**区民や施設事業者へ今後どのような支援を行っていくか、区のを伺います。**A  
区長多世代交流の課題の検証と今後の施策展開について、地域の人間関係の希薄化・核家族化が近年進んでいるため、高齢者や児童等に係る様々な施策や取組を融合し、**多世代の人々が交流し、共生する地域づくりを推進する重要性は、今後ますます高まると考えます。**区では、**まずは交流の場や機会をできる限り設け、世代間相互の理解を深め、お互いを尊重し合える関係を築くことが必要と**考えております。さらに、多世代交流を通じ、**施設が地域活動の拠点となり、地域コミュニティの創出・醸成に寄与し、活動が活発になるよう、様々な視点からのサポートが重要です。**交流施設の課題、継続的な交流のための区の支援には、**いかに交流の機会を数多く創出するかが課題と**捉え、例えばグランチャ東雲ではイベント型や講座型など、多様な参加形態の交流事業を数多く実施しております。今後、区では継続的な多世代交流の促進のため、**引き続き、施設運営者が様々な事業を展開できるよう積極的に支援**します。

## 関連施設との連携

やしきだ  
あやか開設から12年。グランチャ東雲を利用するシニア世代は今、段階的に介護ステージへの移行が必要で、サポート体制の強化も課題です。区内には、公共施設の一部に交流スペースを設けるなど、交流を図るための施設が幾つも存在します。**関連施設と長寿サポートセンターとの連携強化や、幼児・児童関連施設と教育委員会や区の担当課との連携強化を図るべきと考えます。**区ではどのように課題を捉えて、**今後の施策に生かしていくのか伺います。**A  
区長児童館や福祉会館等には日常生活に不安や悩みを抱える利用者もおり、適切な支援に繋げるべく、関係機関との連携の重要性は区で認識しています。このため**児童は子ども家庭支援センターや教育委員会等と、高齢者は長寿サポートセンター等と既に密接な連携**を図っており、各施設で日常的な情報共有のほか、**地域連絡会・懇談会の実施など、様々な形で現場レベルの連携**を進めています。今年度より地域福祉計画に掲げる行政内部の分野横断的な連携の推進を図るべく、**実務担当者レベルの庁内福祉連絡会議を設置。情報交換や具体的な対応方針の検討等を進め、庁内や関係機関との連携の強化**を図ります。

## 巡回バスの拡充と区内施設との連携

やしきだ  
あやかグランチャ東雲への巡回バスは、**城東地域、深川地域からそれぞれ行き帰りを合わせて毎日無料で区内全域を**走ります。またバス停は、都営のバス停とは別の小さな目印が置かれています。このバスに実際に乗ると、**バス利用は、高齢者が一番行動する時間帯の朝から午前中の便に集中**することが分かりました。**午後ががらがらになるので、今後このまま運行させるのは非常にもったいないと感じました。**そこで現在、本区で検討課題である「**福祉的な要素を持った交通手段**」の一つとして、この巡回バスを将来的に本区と**グランチャで連携し、バス停の拡充やバスの本数の増便**をするのはどうですか。区内に点在する子ども家庭支援センター、老人ふれあいセンター等の健康増進施設や病院、駅の周辺にも回るような巡回バスルートがあれば、**区民全体の健康維持、福祉向上につながる**と考えます。見解を伺います。A  
区長グランチャ東雲の送迎バスは、平成23年3月に廃止した「夢の島いこいの家」で運行した送迎バスで、翌4月に開設したグランチャ東雲の利用者の利便性を考慮し、引き継いだものです。このバスを福祉的にも活用すべきとお尋ねですが、バス停によっては、**グランチャ東雲に到着するまでの乗車時間を必要以上に要し、送迎バスとしての本来の役割を果たせなくなる恐れもあることから、現時点では考えていません。**令和2年に地域公共交通庁内検討委員会を設置しており、**移動支援が必要な区民の交通手段は総合的に検討**します。



令和4年度第2回定例会(2022年6月)での質問内容です(Q:やしきだ区議の質疑、A:行政側答弁)

## 多世代交流、大島カフェ06の視察へ!

2017年に大島6丁目団地自治会が「団地コミュニティの希薄化に対する交流拠点の必要性」をUR都市機構に要望。そこからUR、社会福祉協議会と連携し、有志が実行委員会を立ち上げ、カフェ06を2020年9月にオープン。

「高齢者のための場所は近所にあるけど、気軽にお茶や軽食が楽しめる場所があったらいいのに」という多くの意見を取り入れて、気軽にプラッと寄れるカフェになりました。「1人でフラッとお茶したい」、「座って周りの声が聴こえるだけで安心する...」、「子育て中の10分でも1人で過ごせる時間がほしい」、「子どもが泣いても大丈夫な場所ないかな...」。そんな思いに応えられるよう、団地や周辺に住む元気なボランティアスタッフの

皆さんが、子守りをしてくれたり、ゆっくり過ごす時間をお手伝いしてくれる姿も。地域との繋がりを大切にし、地域のママグループによるマルシェや、三線教室、「在宅避難のすすめ」講習会や、壁には地域の画家さんが描いた絵画を飾り、入り口にはスクエアショップとして、地域の人が作った雑貨などが売られています。

カフェ06のような、地域、人、それぞれの持つ経験を繋ぐカフェが、更に江東区全体に広まっていくことを願っています。

大島カフェ06(ゼロロク)

★ 場所: 大島6丁目団地6号棟の1階

★ 営業日: 毎週火/木、第4土曜日 11~14時



## 渋沢栄一翁の視点から見る文化財等の活用と教育・研修施策



### 教育施策



渋沢栄一翁の生き方、考え方や教えから学ぶことがたくさんあると私は考えます。特筆すべきは、明治という近代日本の黎明期・大混乱の時代に、多くの企業の設立と福祉や教育にも尽力したことです。江東区との関連

は、災害罹災者、生活困窮者の救済や、当時の深川区役所建設に多額の寄附をされています。渋沢翁は「倫理と利益の両立」を繰り返し説き、「逆境の時にこそ、力を尽くす」精神の下、純粋に公益を追求された人でした。今から180年近くも前に、既にSDGsに通じる考え方があったと言えます。この教えを教育施策と結びつけ、広く区民や区の事業に関わる人、子どもたちに知ってほしいと思いますが、何か今後の展開を考えられていますか。

地域振興部長

本区では、既に明治小学校建設や増築費の寄附を受けたことで、渋沢翁について知る授業を毎年行っています。また教育委員会では、図書館にパネル展示や所蔵資料の展示を行い、広く区民の皆様へ渋沢翁を紹介。今後は、渋沢翁の生き方、考え方や、江東区との関わり等を子どもたちが主体的に学べるよう、本区独自に作成する「副読本資料の充実」を検討中です。子どもたちへの施策展開ですが、現在、潮見で旧渋沢邸の移築が進行中であり、来年公開予定です。本区では、小学校3年生の児童が区内巡りの学習を行っており、そのコースの一つとして見学できるよう検討しています。

## 区の職員に向けた研修制度



渋沢栄一翁の顕彰に関する包括連携協定の加盟を機に、庁内ではプロジェクトチームが立ち上がり、若手グループによるワーキンググループ等の活動を進めてこられました。これまでは観光関連を中心とした職員のチーム構成でしたが、現在どのような活動をされていますか。将来、幅広い視点での意見交換や情報共有が必要だと考えますが、職員課や教育委員会等の分野の部署にもプロジェクトチームに参加してもらうなど、庁内全体のプロジェクトチームへと拡充してはどうでしょうか。

自治体の例で、埼玉県深谷市では、観光のみならず職員の人材育成に力を入れるなど、渋沢翁の考え方を職員全体が理解し、職場に生かす取組がなされています。

例えば、「論語と算盤」を題材に、渋沢栄一翁とゆかりのある他の民間企業のような研修制度の構築を図るべきと考えますか。見解を伺います。

地域振興部長

渋沢翁と本区とのゆかりについて、継続的に区内外に広く周知する方策を検討するため、庁内及び観光協会等でプロジェクトチームを設置し、渋沢翁と本区とのつながりに関する調査研究、観光・産業支援策、PR方法等を検討してきました。プロジェクトチームの拡充は、必要に応じて柔軟に対応し、関係機関において幅広く意見交換や情報共有を行い、事業を進めていきます。また、職員の研修制度について、御提案の渋沢翁の考えを生かした研修につきましても、他自治体の取組状況の把握など、今後の研究課題とさせていただきます。

## 民間企業との連携の強化

やしきだあやか

令和5年度には、清水建設の潮見イノベーションセンターでできる旧渋沢家住宅の一般公開が控えています。例えば、潮見イノベーションセンターをはじめとした区内近隣の渋沢翁ゆかりの施設や建物の見学、また施設によっては、一般非公開の建物やスペースなども、期間を定めて、ツアーのような形で区の観光施策に織り交ぜるのはどうでしょうか。

地域振興部長

区として、今後は清水建設や澁澤倉庫等の民間企業とどのような連携を図っていくのか見解を伺います。

本区には渋沢翁とゆかりのある民間企業が多数あり、渋沢翁の経営に対する考え方を企業理念に掲げているところもあることから、そのような企業と連携し、協力を得ながら進めることが重要と考えております。

## やしきだ綾香 プロフィール

1985年南砂生まれ、現在東砂在住。

- ★ 江東めぐみ幼稚園、第3砂町小、第3砂町中、都立東高卒業。文京学院大学人間学部 保育学科卒業。
- ★ 保育士資格取得(平成20年3月東京都知事認証)

- ★ 平成27年4月 江東区議会議員 初当選
- ★ 厚生委員会委員
- ★ 地下鉄8号線延伸・交通対策推進特別委員会委員
- ★ 手話推進議員連盟 世話人



江東区議会議員

やしきだあやか

ご意見・ご感想をお聞かせください

FAX 03-3646-9766

江東区議会 民政クラブ

f 屋敷田綾香

やしきだあやか



〒135-8383 江東区東陽4-11-28(江東区役所)

MAIL yasikidaayaka@yahoo.co.jp